

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノ演奏法Ⅱ Piano Performannce Method Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
ピアノ演奏法Ⅰ 音楽表現Ⅰ 音楽表現Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程（幼稚園教諭二種）、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡泉志のぶ 中沢充恵 西尾幸子 関義夫 古屋知恵		講義棟3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
保育の現場で活躍するためには、保育者としての基本的なピアノ演奏技術がなくてはならない。この授業では、個々のピアノ技術の向上を目指し、特に保育の現場で多く歌われる日常のうたや季節のうた、行事のうたの伴奏法を学び、保育現場に活かせる伴奏の習得を図る。バイエルを終了している学生は、教則本ブルグミュラー以上の曲も併用してピアノ演奏技術の向上を目指すこととする。				
授業の目標				
①ピアノの効果的な練習法を身につけ、この授業内で教則本バイエルを終了することができるようにする。 ②音楽を表現する楽しみを味わい、幼児曲を楽しく伴奏することや正確に歌って表現することができるようにする。 ③実習先からの課題曲、または日常のうたや季節のうたを演奏することができるようにする。 ④保育現場での音楽の必要性を理解し、弾き歌いに必要な表現力も養うことができるようにする。				
授業の方法				
演習（実技）形式で、基本としては個人レッスンとし、各学生の能力に応じた指導を行う。幼児曲演習ではグループでの指導を行い、保育現場で活用できる曲を確実に自分のレパートリーとして弾けるように指導する。個人レッスンの際には、各学生の能力に応じた指導を行うため、以下には、標準的（初心者の学生に適した）授業計画を示す。				
学習の成果（学習成果）				
教則本バイエルを終了することで伴奏法の基礎を理解し、子どもたちと一緒に楽しみながら音楽的な表現活動の援助や様々な幼児曲を伴奏することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業内容・評価方法の説明 受講する際の注意 担当別：各自今後の課題、幼児曲指導（実習対策）日常のうた「おはよう」			
第2回目	教則本の習得（バイエル80番程度）① 幼児曲ピアノ指導：（曲例）日常のうた「おべんとう」「おかえりのうた」			
第3回目	教則本の習得（バイエル80番程度）② 幼児曲ピアノ指導：（曲例）季節のうた「大きな栗の木の下で」「どんぐりころころ」			
第4回目	教則本の習得（バイエル80番程度）③ 幼児曲ピアノ指導（実習対策）課題曲と保育現場での実践に向けて			
第5回目	幼児曲ピアノ指導（実習対策）グループ発表と保育現場での実践に向けて			
第6回目	幼児曲ピアノ・歌唱指導：各自実習先での音楽的表現活動の報告と今後の課題見直し			

第7回目	教則本の習得（バイエル90番程度）①	
第8回目	教則本の習得（バイエル90番程度）②	
第9回目	教則本の習得（バイエル100番程度）①	
第10回目	教則本の習得（バイエル100番程度）②	
第11回目	音楽実技試験課題曲の指導（バイエル終了程度）①	
第12回目	音楽実技試験課題曲の指導（バイエル終了程度）②	
第13回目	音楽実技試験課題曲の指導（バイエル終了程度）③	
第14回目	実技試験（各自発表） 実技試験の講評と幼児曲課題提示	
第15回目	保育現場での実践に向けて 幼児曲ピアノ：（曲例）「大きな古時計」「さんぽ」の指導ポイント	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	毎回与えられた課題を日々練習して授業に臨んでいる。レッスンを受ける際の取り組み方や曲の理解度についても評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト	20%	日常のうた、季節のうた（または実習先からの課題曲）をグループ発表で行う。
試験		
発表内容（態度含む）	50%	全担当教員5名の前で1曲演奏し曲の難易度と表現力を考慮してで採点する。担当教員5名が採点した点数の平均点を評価とする。
その他	10%	チェックシートの進度により評価をする。（幼児曲10曲以上）
教科書と参考図書		
テキスト：幼児のための音楽教育(教育芸術社)、バイエル教則本(全音楽譜出版社)、ブルグミュラー25の練習曲(全音楽譜出版社)、ソナチネ(全音楽譜出版社)		
履修上の留意点・ルール		
使用教室（MRⅠ、MRⅡ、レッスン室）では、飲食持ち込み禁止とする。 毎回、各学生の進度に適した曲が課題となり、次回の授業でその曲の個人レッスンを受ける。		